

の御まへ○藤原道長 いただきたてまつらせ給て候はせ給へれば、いただきとりたてまつらせ給て、みたてまつらせ給へば、ふくよかにうつくしうおはしまして、御ぐしふりわけにおはしますを御らんとおぼろかせ給て、いかになせきこえさせ給へば、御ものがたりをこそだかにせさせ給て、うちをみくせさせ給へば、あなうつくしき給へるにこそあめれ、まだかゝる人をこそみざりつれ、うたてあまゆゑ、まき御かみな、ことしすぎば、たけにもなりぬべかめりなどおほせられて、いみまぐうつくしげにきこえさせ給○中略 かゝるほどに、日もくれぬれば、かんだちへの御あそびになりぬるが、いみじくなつかしくおもしろきに、なかにまのものを、ねなど、ものはるかにきこゆるに、なみのこゑまつのかせなども、ままぐに、いみじや、とみにいでさせ給まじき御けしきなれば、どのいらせ給て、よにいりはべりぬ、かばかりおもしろきあそびども御らんせんと申させ給へば、いとおもしろしときゝはべり、がくのこゑは、きくこそおもしろけれ、見るはおかしうやはある、さまたまのまひどもは、みなみはべりぬと、いどのどかにの給はすれば、すげなくて、いでさせ給ぬ、むげによに入ぬれば、そのかし申させ給へば、まふくにおきさせ給て、なほとくいらせ給へけふあすのほどにと、かへすくきこえさせ給て、出させ給ぬ、かくてさだいしやう○藤原實資 めして、このいへのこのきんだちのくらゐまし、どのいへづかさども加階せさせ、又わかみやの御めのどのかうふりゆるべきことなどかきいでさせ給て、みや○妍子の御まへには、けいせさせ給、どのはやがて御まへにて、舞踏し給、わかみやの御めのどのかうぶり給はり、あふみのないしは、かかいをぞせさせ給へる、かくて御おくりもの、かんだちへてんじやう人などのおくりもの、れいのごとくもおもひやるべし、よろづあさましくめでたきとのゝありさまなり、このつちみかぞのいよくをたび行幸あり、あまたのきさきいでいらせ給ぬらんと、よのあえものにきこえつべきとのなり、これを勝地といふなりけり、これをゑいぐわといふに